
青春の肖像 1

山之内 白洞人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春の肖像 1

【Nコード】

N8116F

【作者名】

山之内 白洞人

【あらすじ】

遠い昔、淡く切ない恋があった。

序章

序章

遠い思い出の彼方にかすむ1人の少女の原像、あれは本当の事だったのだろうか？

それとも青春のカーオスがつむぎだした私の幻覚だったのだろうか？あの光り輝いていた遠い日々をふと思い出すたび、私はこうして白髪となった今でも言いようのない郷愁と憧憬にかられずには居られない。

その頃私は、東京の大学はでたものの、これといって就職活動をするでもなく、何気なく入った丸の内の真和海運会社にも実が入らず、一月足らずで辞めてしまい、4畳半の下宿をたたみ、実家へと戻ってしまっていた。

そこで、父の家業を手伝ったり、短期のアルバイトをして実に優雅な暮らしをしていたのだが、ふと、そうだ、自分は教員免許を持っていたのだと、思いつき、ここでこうしているよりもどこか田舎の教員にでもなつて、隠者のように暮らしたいな、などと、夢のように描き出したのだった。その頃私は、都会での暮らしに疲れ果てて、そんな思いを抱いたのだろう。

早速勉強を始めて、その年、山里県の教員採用試験を受ける事になった。

1次試験は私の知っている問題ばかりで、何とほとんど正解、案の定1次合格で2時の面接へとこぎつけた。

2次で何を喋ったか今ではもう覚えても居ないが、とにかく2次も合格。

とんとん拍子に進んでいったのだ。

そしてある日、私の元に1本の電話が、

「岡下複合学校の校長の有田と言うものですが、3月6日の13時に当校まで来てください。」

採用の面接を行います。」

何と私は、教員として採用される事になったのだ。

その日、私は1時間も電車に乗り、着いた岡下駅から、さらにバスに1時間も乗り、

山あいの小さな学校に着いた。

そこは山間へき地に属する、

山奥で、谷川のその先に掛かった、つり橋を渡っていくというその先に開けた岡にたつ学校だった。

谷川の清流を下に見ながら、長いつり橋を渡り、

白い木造の平屋建ての学校に着いた。

古びた木の階段を上がり、ドアを押し開け、むくいたのろうかを辿り、事務室と書かれた

部屋に入った。

若い女の事務員が居て、

「ああ、山之内先生ですね。校長がお待ちです、どうぞ、」と招じ入れてくれた。

校長はでっぷりと太った方で、

「やあ、遠いところごくるうさん、で、下宿はどうしますか？」と聞いてきた。

もとより、こんな見ず知らずの片田舎に知り合いもなく、まして滞在先など決まっているはずもなかった。

「いえ、どこかよろしくお願いします。」

「そうですか、じゃあ、但馬先生を呼んでくれないかね、」と女の事務員に命ずると暫くして中年のちよつと怖そうな、女教師が

現れた。

このときまさか、このことがあんな、大問題になるとは私は知る由もなかった。

思えば、この女教師が私にとって悲劇の始まりだったのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8116f/>

青春の肖像 1

2011年1月27日13時49分発行